

# 逆流性食道炎について

うがじんクリニック

宇賀神 一名 先生

食事の後に胸やけがする、胸からみぞおちにかけて焼ける感じがする、食べた物が胃に残り、いつまでもすっきりしない。こんな症状を経験した人はいませんか。これらの症状で悩んでいる人は逆流性食道炎を疑ってみてください。

胸やけは、胃酸が食道側に逆流することによって起こる症状です。食べ物を消化するために分泌される胃酸は強い酸性です。酸に対抗するため、胃の粘膜は特殊な防御機構を持っています。しかし、食道の粘膜にはそれがないため、何度も胃酸が逆流すると食道の粘膜が障がいされて、潰瘍になったり、出血する場合があります。また潰瘍が残っても狭窄が残り、食べ物が通りにくくなることもあります。

原因としては、

- ①下部食道括約筋(食べ物の逆流を防ぐバルブの役目をしているもの)の弛緩
  - ②肥満や背骨の変形による腹圧の上昇
  - ③大食などによる胃内圧の上昇
  - ④胃排泄機能(消化した食べ物を十二指腸に送る働き)の低下
- などがあります。

上部消化管内視鏡検査を行うことで、下部食道括約筋の弛緩の程度や胃酸の逆流による粘膜障がいの状態などが正確に把握できます。問診でも本症は診断できますが、自覚症状と病変部の実際の所見が異なる場合や、他の病変が併存する場合がありますので、病状が続く場合は、検査を受けたほうが安心です。

治療は、胃酸の分泌を抑制する薬や中和する薬、消化管の運動を改善する薬(原因④に対して)などを用います。内服治療で症状は改善しますが、治療を中断したり大食や肥満などが改善されなければ容易に再発します。生活習慣の改善も重要ですから、症状のある人はお近くの医師にご相談ください。